NAGASAKI

長崎県埋蔵文化財センター

長崎県の埋蔵文化財
－お城編－

長崎の城跡
－近世城郭と土の城－

Pick Up 城跡から発掘された出土品

Prefectural Archeological Center

Prefectural Archeological Center

NAGASAKI

日本の城の9割は土の城？

武辺城跡堀切（佐世保市）

「 日本の城 」といえば、多くの人が立派な天守や高い石垣を備えた城の姿を思い浮かべることでしょう。長崎県内には、鎌倉時代から戦国時代にかけて築かれた「 城 」の跡が約660か所あります。そんな数の城がどこにあるのか、不思議に思うかもしれません。実は、日本全国に残っている城のほとんどは、土を掘ったり盛ったりして築かれた「 土の城 」です。立派な天守や高い石垣を備えた城は、信長・秀吉の天下統一に伴って広まった城（ 近世城郭 ）で、戦国時代の終わり頃から江戸時代にかけて築かれました。今となっては山や雑木林のようで見過ごされがちな「 土の城 」ですが、その圧倒的な数はあちこちで戦が起きていた戦国時代を物語っています。

県内全域に残る城館跡もそのほとんどが土の城ですが、地名や郷土史などの文献調査によって約 610 か所の城館跡推定地が確認されています。これらの城館跡は現地確認を中心とした分布調査[※1]が行われ、土塁や空掘などの遺構が確認された場合、縄張り図[※2]を作成するなどの詳細調査が実施されました 。本誌では、これまでに県教育委員会が調査した近世城館跡のうち県埋蔵文化財センターが出土品を収蔵する城跡を中心に、「 長崎の城 」をご紹介します。

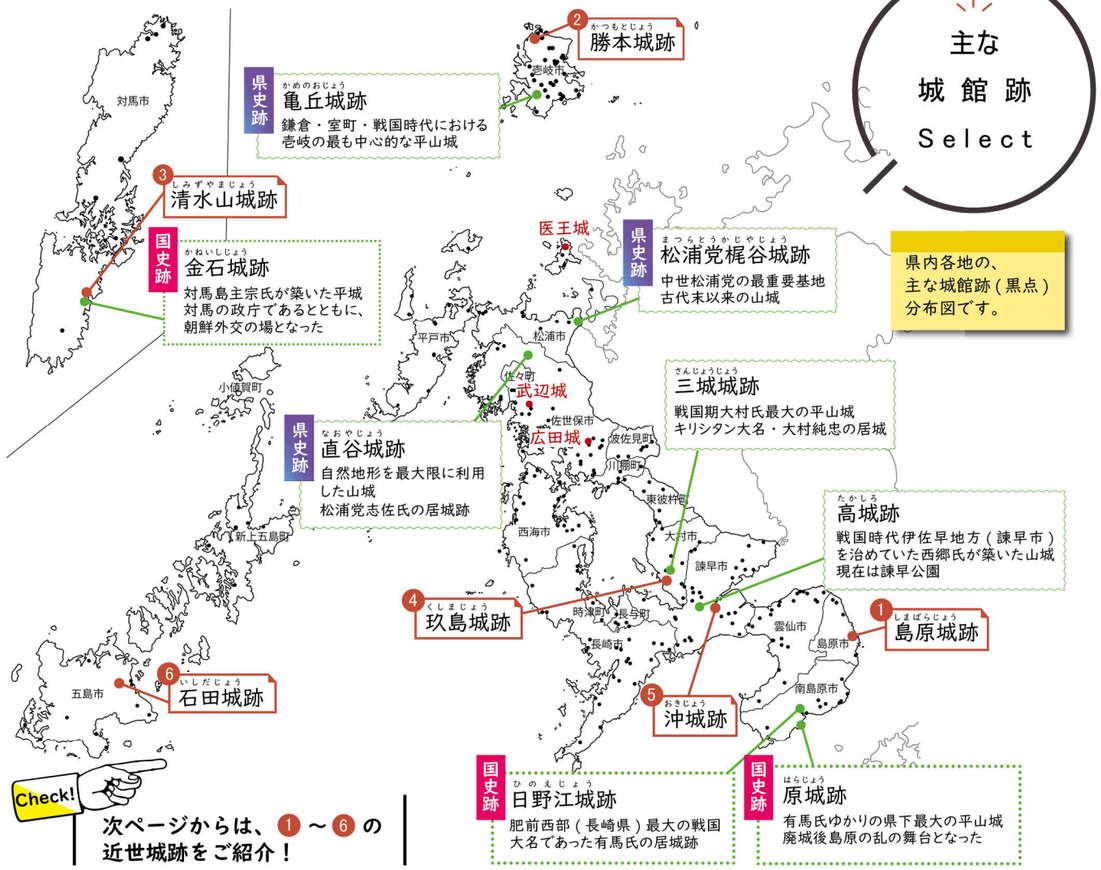
※1 中近世城館跡分布調査（ H17-H22 ）　※2 縄張り図… 遺構の配置や規模などを明記するために作成した測量図

中世の土の城に見る「堀」や「土塁」。土造りだからこそ、攻守を意識した戦国時代の「城」の様相を実感できる場所といえます。

医王城跡 北空堀（松浦市）

広田城跡 土塁（佐世保市）

主な城館跡 Select



Check! 次ページからは、1 ～ 6 の近世城跡をご紹介！

まめ知識 城のいろいろ

戦いの中のあらゆる局面に応じて築かれる「 城 」は大きさや形も様々。戦い方の変化とともに築き方も変化し、時代とともにその役割までも変化していきました。ここでは、立地からみた城の種類をご紹介します！

山城

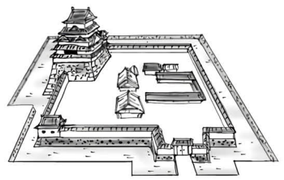
山の上に築いた城

平山城

丘や台地を利用した城で丘城とも呼ぶ
戦国期にみられる

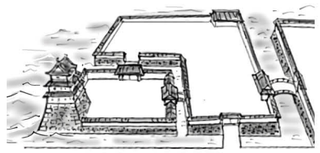
丘の上から麓にかけて築いた城
近世の城に多い

平城



平地に築いた城

水城（海城）



湖や海に面して築いた城
海辺の城を特に海城とも呼ぶ

MEMO

築城時期のいろいろ

安土桃山時代は、織田信長・豊臣秀吉の姓をとって織豊（しょくほう）時代とも呼ばれ、その頃に築かれた城を「織豊系城郭」といいます。長崎県内の織豊系城郭は、対馬市の清水山城や壱岐市の勝本城、大村市の玖島城などがあり、その後に築かれた近世城郭も時勢別に分類することができます。時代が安定すると戦は学問（軍学）となり、城の縄張りも実践から理論へと変化しました。江戸時代中期に再建された平戸市の亀岡城（平戸城）は、平山城としては日本唯一の軍学（山鹿流）に基づく近世城郭です。

島原城本丸跡
（復興天守）／島原市

“近世城郭”とは

現在日本の城のイメージとして馴染み深い石垣の城、「 近世城郭 」。その祖となったのは、織田信長が築いた安土城です。金箔貼りの瓦が葺かれたきらびやかで大きな天守、石垣に礎石建物、立派に整備された城は、強大な軍事施設であると同時に、城主の権威を示す象徴となりました。信長亡き後天下統一を果たした豊臣秀吉はこうした城づくりを受け継ぎ大坂城を築きます。その後、文禄・慶長の役（朝鮮出兵）を機とする肥前名護屋城などの築城は大名に分担されその技術が学ばれることになり、諸大名がそれぞれの地で同じように城づくりを行い全国に広がっていきました。秀吉の死後慶長期には築城ラッシュとも呼ばれる活性期を迎え、近世城郭の築城技術は新しい時代の幕開けとともに短期間で発展し完成しました。

城は、領地を守る軍事施設から領地を治める役所へと変わり、現代においては地域のシンボルとして人々に親しまれています。

県史跡

❶ 島原城跡（島原市）

戦国時代から島原半島を治めてきたキリシタン大名有馬氏に代わり、新たな領主となった松倉重政は、1618 年（元和 4 年）から約 7 年の歳月を費やした壮大な規模の島原城と城下町を築きました。島原半島中央部の森岳と呼ばれた小高い丘に築かれたので別名「 森岳城 」とも言います。 江戸幕府が新規築城を原則禁止していた中で、全国でも数少ない新設の城郭でした。城門 7 ヶ所、平櫓 33 ヶ所を備えた塀などが本丸・二ノ丸・三ノ丸を取り囲み、本丸には五層の天守閣、3 か所に三層櫓がそびえ立つ総石垣の豪壮堅固な城構えは、4 万石の大名の城としては過分といわれるほど立派な城で、築城に際しては領民に過酷な税や労役を課すなど多大な負担を強いることになりました。2 代目松倉勝家の代にはキリシタンの迫害もよりいっそう激しくなり、日本史上最大規模の一揆となった「 島原の乱 」を引き起こす要因の一つになったといわれています。

国史跡

❷ 勝本城跡（壱岐市）

文禄・慶長の役 (1592-1598) に際し、豊臣秀吉は本陣として肥前国松浦に名護屋城（佐賀県唐津市）を築き、同時に朝鮮半島釜山までの兵站基地として、中継地となる国境の島・壱岐と対馬に城を築きました。勝本城は壱岐の最北端に位置し、勝本港を見渡せる城山の山頂にあります。秀吉から築城の命を受けた平戸領主の松浦鎮信が主としてあたり、同じく肥前の大名である有馬晴信・大村喜前・五島純玄の三氏の協力を受けて天正 19 年 (1591) 末に完成しました。秀吉の弟秀長の家臣、本多因幡守正武が慶長 3 年 (1598) までの 7 年間入城し、慶長の役の終了により破却されました。

国史跡

❸ 清水山城跡（対馬市）

勝本城と同様に兵站基地として築かれた清水山城は、厳原港を見下ろす清水山の山頂に一ノ丸、東の尾根の先端に三ノ丸、その中間の段に二ノ丸と称する三段の曲輪があり、尾根沿いに全長約 500m の石塁で繋がっています。毛利高政の築城と伝えられてきましたが、近年の研究では対馬領主の宗義智を主力とし相良長海、高橋直次、筑紫廣門らが加勢し築城された説も有力となっています。門跡や桝形などが残っており、石垣の石の積み方が各曲輪で異なるのも清水山城の特徴です。慶長の役の終了とともに廃城となりました。

Prefectural Archeological Center

Prefectural Archeological Center

❹ 玖島城跡（大村市）

御船蔵跡が残る城

築城当初と改修後の石垣の違いにも注目！

御船蔵跡（県史跡）

いろは段

玖島城は日本最初のキリシタン大名として知られる大村純忠の子、喜前（初代大村藩主）によって1599年（慶長4年）に築城されたと伝えられています。浅瀬でつながった小島を利用した平山城で、三方海に囲まれた海城でもありました。秀吉の死後、国内が再び不安定になると予測した喜前は、新しい技術を取り入れた城郭が必要であると考え、文禄・慶長の役の経験から防御性の高い海城の形態を選択したと言われています。大村湾を取り囲む形の大村氏の領地を考えると防御面での有利さだけでなく、海上交通の便も考えて海に面した城を築いたと考えられます。1614年（慶長19年）2代藩主純頼が城の大改修を行い、以後江戸幕府がその歴史を閉じるまでの約270年間、大村藩の政治経済の中心となりました。城の建築物は明治の廃城に伴い解体されましたが、堀や石垣など城の生命線ともいえる防御施設や、御船蔵跡（県指定史跡）など、海運に関する施設が残っています。玖島城からは、大村氏の以前の居城である三城城の時代にもたらされたと考えられる国際色豊かな貿易陶磁も多数出土しています。

玖島城跡出土 軒丸瓦（紋瓦）
大村家家紋

出土品 Pick Up

華南三彩

－トラディスカント・ジャー *Tradescant jar*－

明朝後期の中国南部・華南地方で生産されたとみられる、橙（茶）・緑・紫などの釉をかけた陶器質の三彩で様々な器種があります。東南アジアでの出土例が多く、日本では少数の遺跡から出土しています。玖島城出土の華南三彩は、大村領内に南蛮船が入港していた時期にもたらされたものと考えられます。

マヨリカ陶器

マヨリカ陶器は中世末期から17世紀にかけてヨーロッパで作られ、特にアルバレロ形と呼ばれる筒形の壺は、日本でも茶道具として用いられていたようです。玖島城出土のマヨリカ陶器片は築城当時の層から見つかっており、少なくとも慶長年間にもたらされていたと考えられます。国内においても古い時期の出土例です。

長与三彩

長与焼は大村藩領長与村嬉里郷（現在の西彼杵郡長与町嬉里郷）で作られた磁器です。特に長与三彩はたいへん珍しい焼き物だったようで、江戸時代に大村藩が編纂した『大村郷村記』の中で、「珍敷焼物」と紹介されています。現在でも出土例があまりありません。

Prefectural Archeological Center

石垣に注目！ 玖島城 “ 大改修ビフォーアフター ”

石垣普請の技術は、近世城郭とともに急速に発展していきました。石垣を見れば、石の加工法、積み方などからある程度造られた時代を判断することができます。現在見られる玖島城は築城から約15年後に行われた大改修後の姿ですが、一部に築城当初の石垣が残っています。築城当初は自然石を使った「野面積」でしたが、大改修後は角や面を加工した石を使った「打込接」に変化しています。石垣に注目してみると、築城当時の面影と石垣技術の発展、城の歴史を感じることができます。

旧大手側にあり、海岸へ続いていたという「いろは段」。両脇に築かれた石垣が「野面積」。築城当初、織豊時代の面影をのこしています。

玖島城の虎口。石を加工し、隙間を減らす積み方「打込接」は、野面積よりも高く急な石垣になります。近世城郭によく見られる積み方です。

❺ 沖城跡（諫早市）

付近に城畠という地名が残る平城

現在は一面水田地帯

沖城跡調査区全景

沖城は、諫早（龍造寺）氏が居城を定めた高城（諫早城）の支城の1つと伝えられ、諫早家初代・龍造寺家晴の隠居城として使われていたといわれています。元は中世期に諫早地方を治めていた西郷氏の支城とされています。沖城跡からは、龍造寺家晴の時代的特徴を示す国産陶器をはじめ磁器類などが出土しており、茶事に用いる器が多く見つかっています。

出土品 Pick Up

“ 城 と 茶道具 ”

唐津焼（鉄絵向付）

向付とは茶事に用いられる器の一種で、刺身などが盛られます。茶道の世界には“一楽二萩三唐津”という言葉があり、唐津焼は古くから茶人に愛されてきたやきものです。草木や鳥などの文様（鉄絵）を施した「絵唐津」が慶長の頃盛んにつくられ、『織部茶会記』などの古文書にも“唐津”の名を見ることができます。

お茶は戦国武将たちにも好まれ、茶道具は大切にされていました。

Prefectural Archeological Center

日本で最も遅くに築城された近世城郭

異国船防御を目的とした海城

⑥ 石田城跡（五島市）

石田城（福江城）は、幕末に完成した日本で最も新しい城です。この石田城は海に張り出した海城で、各曲輪の隅には西洋流の砲台が設けられています。五島氏は江戸初期に江川城が全焼して以来、福江の石田浜に設けた陣屋住まいでした。大名として居城を持つことは悲願であり、日本最西部の島嶼を治めていた五島藩は、近海に異国船の出没が頻繁であることで早くから海防の重要性を痛感していました。1641 年（寛永 18 年）には領内に遠見番所を 7 か所、1647 年（正保 4 年）にさらに 4 か所設けるなどの対策をとり、幕府からも異国船警備番役を課されるなど外圧への対処をしてきた中で、1806 年（文化 3 年）異国船警固を理由に藩主五島盛運（もりゆき）が幕府に築城を願い出ましたが、「一国一城令」の治世下において、新たな城の築城許可を得るのはたいへん難しいことでした。

その後、外国船来航に伴う出来事が現実に頻発するようになり、最初の請願から実に 43 年も後に築城が許可され、14 年後の 1863 年（文久 3 年）に完成します。海に面した城らしく、水門（船着き場）があるのが特徴です。江戸時代の一番最後にようやく完成した石田城でしたが、僅か5年後に明治維新となり、築城9年にして一部楼門のみを残して解体されました。明治維新後、城は長崎県立五島中学校（現在の長崎県立五島高等学校）の敷地となっています。

石田城跡西門

めがね橋門

出土品 Pick Up

鳥衾瓦（とりぶすま）

石田城跡出土
（五島家家紋）

鳥衾（とりぶすま）とは瓦の種類で、本丸跡北側の門跡から出土しました。五島家の家紋を門の棟瓦として用いていたことがわかる資料です。

長崎県埋蔵文化財センター

〒 811-5322
長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515 番地 1
TEL：0920-45-4080
http://www.nagasaki-maibun.jp/index.html

2021 年 3 月発行

Facebook でも最新情報を発信しています。